

肺炎球菌ワクチン

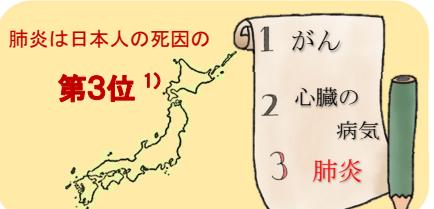
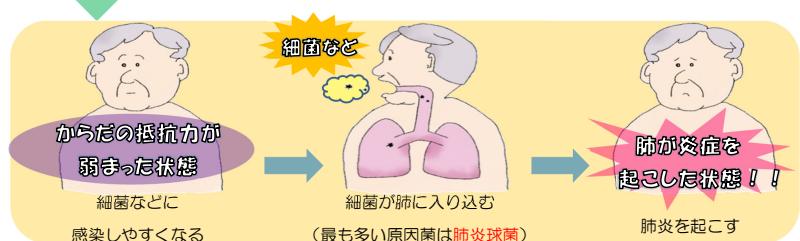
肺炎ってどのような病気？

細菌やウイルスなどが、からだに入り込んで起こる肺の炎症です。

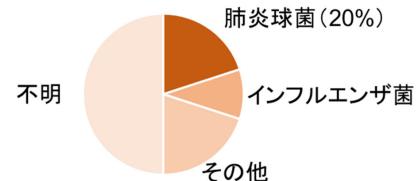
症状として発熱、咳や痰、息苦しさや胸の痛みなどがあります。

からだの抵抗力（免疫力）が弱まったときに感染を起こしやすいです。

からだの抵抗力（免疫力）が弱まる



肺炎の原因微生物



65歳以上の市中肺炎の原因菌の中で、

最も多いのは「肺炎球菌」！！

どうすれば予防できるの？

毎日の感染予防 からだの免疫力を高める 予防接種を受ける



肺炎球菌ワクチンが推奨される方

- 肺炎で入院あるいは肺炎の既往のある方
- 呼吸器疾患: COPD、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌など
- 循環器疾患: 心房細動、心臓弁膜症、虚血性心疾患など
- 脳血管疾患: 脳梗塞・脳出血後遺症、嚥下困難など
- 糖尿病、大腿骨頸部骨折・脊椎圧迫骨折など
- ステロイドなど免疫抑制剤を服用されている方、脾臓を摘出した方
- 老人施設や長期療養施設などに入所されている方など

ワクチンについて教えて!

2014年10月より成人の肺炎球菌感染症に対して

定期予防接種の取り組みが開始されました。

肺炎球菌ワクチンには3種類あります。

	ニューモバックスNP (PPSV23)	パクニュバンス (PCV15)	プレベナー13 (PCV13)
含まれる抗原	23種類	パクニュバンス 15種類 プレベナー13 13種類	
抗体作らせる能力	低い	高い	
効果の持続	短い	長い	
再接種の必要性	5年ごと	無	
公費助成の有無	対象年齢で1回有	無	

細菌やウイルスに感染すると、

その病原体に対する抵抗力が体内に生まれます。

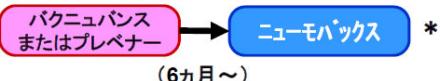
この原理を応用したのがワクチンによる予防接種です。



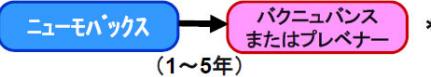
当院での肺炎球菌ワクチン推奨(適応追加後)

65歳で定期接種(PPSV23)が原則

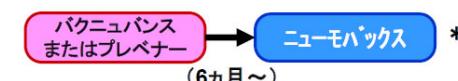
- 65歳未満で肺炎球菌感染症の罹患リスクがある方はパクニュバンスまたはプレベナー13を接種。



- 65歳以上で肺炎球菌ワクチンの定期接種を受けた方



- 65歳以上で肺炎球菌ワクチンの定期接種を受けていない方



- 65歳以上で過去2回PPSV23を受けている方



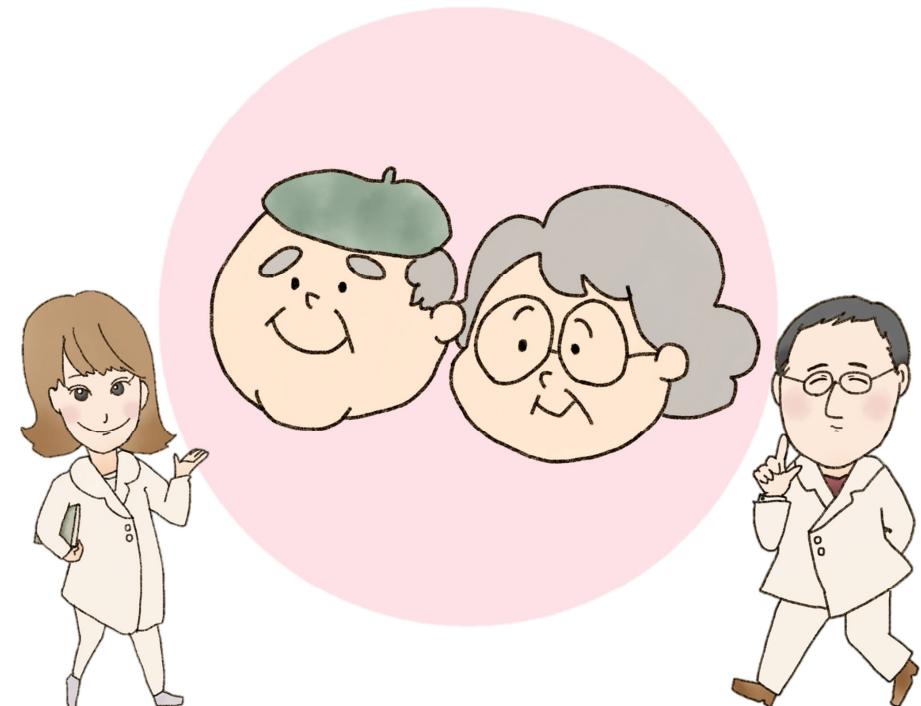
* 以降、ニューモバックス接種から5年以上あければ次のニューモバックス接種可能。

肺炎球菌ワクチンの注意点

- 過去に肺炎球菌ワクチンを接種したことがある方は、前回接種した時期を必ずお知らせください。
- 肺炎球菌ワクチンの接種後に、接種部位の症状(痛み、赤み、腫れなど)、筋肉痛、だるさ、発熱、頭痛などが現れることがあります。気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐにご相談ください。
- 接種後にワクチン手帳をお渡します。なくさないように大切に保管してください。

肺炎球菌ワクチン を受けられる方へ

～安心してワクチン接種をしていただくために～



監修 長野県立信州医療センター 院長補佐
感染症センター長

山崎善隆

作成 薬剤科 杉山美樹・三澤貴美
イラスト 角間みなみ